

時代	近世	遺跡・資料	松江城下町絵図・家老屋敷跡
----	----	-------	---------------

江戸時代の城下町 ～松江城と城下町～

江戸時代になると、各地を治める大名は、政治や経済の中心となる城下町を整備しました。城下町には武士や町人などが住み、商業や流通をにないました。

松江城の築城

松江城は亀田山に築かれた平山城で、堀尾氏が1607年に築城を開始し1611年に完成。周りに内堀、外堀や川をめぐらせた実戦向きの城で、内堀の内側は国指定の史跡。

石垣は材料に大海崎、矢田産の石を使い、野面積み、算木積みなどの工法で積まれている。石垣の中には、堀尾家の家紋など色々な印が刻まれた石がある。

天守は高さ約30mで、外観は五層、内部は六階。矢や銃を撃つ孔が94個もあり、内部には生活物資の貯蔵庫や深さ24mの井戸や、階段は攻め込まれた場合すぐ引き上げられるといった仕掛けがある。現存する12の天守の1つで、国指定の重要文化財。

城下町の形成

もともと松江城の周辺は湿地だったが、北側に堀や屋敷地を造成する際、切り崩した土で埋め立て、侍屋敷や町人町を整備した。

城の周辺には上級の家臣の屋敷を、その外側には中下級の家臣の屋敷を、敵の侵入が想定される南側には寺を配置した。また道路は見通しがきかない鉤型にした。



銃や矢をうつ穴
小さい穴が銃用、
大きい穴が弓矢用



石垣
死角を無くするため
凹凸がある



石垣の刻印



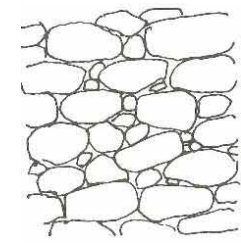
鉤型の道路



図1

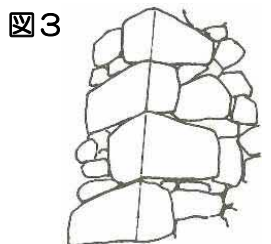


図2



野面積み

自然石のまま積む



算木積み

石垣の隅は弱いため、
細長い石を交互に積む。

松江城下町の代表的な町名の由来

殿町：家老クラスの上级家臣が住んでいたことに由来するといわれる。

母衣町：母衣は騎馬武者がつける広い布で、身分の高い武士が付けていた。町名はこの場所に上级家臣が住んでいたことに由来するといわれる。

内中原町・外中原町・片原町：元々は1つの「中原村」だったが、城下町として整備される中で、四十間堀川を挟んで城側を「内中原」、外側を「外中原」、京橋川の南側を「片原」（片方の中原）と呼ぶようになった。

茶町：茶店が多くあったことに由来。ほかに茶屋という豪商がいたことに由来するという説もある。

芋町：芋は麻を蒸した皮で、縄として使われた。
芋の商人が多数いたとことに由来。

米子町：築城時、米子の職人が移住したことに由来。

南田町・北田町：沼地や湿地を埋めてつくったことに由来。

魚町：海産物の陸揚げ場であったことに由来。

寺町：寺院が多くあることに由来。

雑賀町：鉄砲を扱う家臣が居住。

鉄砲で有名な「雑賀衆」に因んで呼ばれた。



図4 松江城下町遺跡

松江歴史資料館の建設予定地を調査したところ、家老屋敷があったと江戸時代の絵図に記録されている所から、石列や礎石、大量の陶磁器、燈明皿、木製品などが見つかりました。

出典：解説…(図1～2)島根県提供 (図3)『松江観光文化検定試験 公式テキストブック』 2007 松江商工会議所
(図4)『江戸時代に行こうー松江城下町ものがたりー』2011 松江歴史館

～城下町を調べよう～

年 組 名前

江戸時代に、出雲国は松江藩として、当初は堀尾氏、次いで京極氏、1638年からは松平氏が治めました。松江には、城下町が整備されていきました。

Challenge

① 下の地図は、江戸時代と現代の、松江城周辺の地図です。2つを比べて気がついたことを書きましょう。



江戸時代の松江城周辺

※武…武士が住んでいた区画
※この地図は、松江藩第7代藩主松平治郷の時代の絵図をもとに作成したものです。地図上の方位や距離については必ずしも正確ではありません。



現代の松江城周辺



松江城



松江城下町遺跡

江戸時代の家老屋敷の跡から、石の列や、大量の陶磁器や土器、木製品が見つかりました。